

パワーリベラメンテ導入記(4) —アナログ入力系のタップへの導入—

1. 始めに

前報(3)に引き続き、パワーリベラメンテのアナログ入力系のタップへの導入を検討します。

2. パワーリベラメンテの効果の試聴方法

前報(1)で述べたようにチクマのタップと業務用アイソレーショントランス (Star Electric 製 Star-Trans F) の間をずっと以前に購入したオーディオグレードの電源ケーブルからパワーリベラメンテに取り替えて接続します。

試聴対象は、下記の2ルートの再生を行います。

LP-12 からのアナログ再生

{LP-12/Ortofon SPU Royal N} → {iPhono L/R2 台独立} → {プリ}

Garrad401 からのアナログ再生

{Garrad401/EMT XSD-15} → {iPhono L/R2 台独立} → {プリ}

ここで電源供給の状況を説明しておきます。

{ } : パワーリベラメンテ接続アナログ入力系チクマのタップから供給

なお、チクマのタップはポリエステルウール (商品名: パーフェクトバリアー) とコルクで床から浮かしており、iPhono は AC アダプターをチクマのタップ に挿しています。

3. パワーリベラメンテの効果の試聴結果

アナログ系への電源供給のタップのケーブル交換では、カートリッジのクロストークなどの要因でアナログ再生では、とかく出にくい 3 次元の音場感が見事に出てきました。特に奥行き感やエコーなど、録音現場の音場感が良く表現できます。無理にエコーを強調しているポップスや演歌などは、逆にそのことが良く分かり過ぎます。もちろん楽器の質感も十分で、チェロソナタからバロックアンサンブル、大編成オケまでバランス良く破たんするところがありません。50 年代から 60 年代初期の古いアナログ盤も非常にフレッシュな音がします。

4. まとめ

アナログ系への電源供給のタップのケーブル交換でパワーリベラメンテの効果が顕著に現れました。

以上